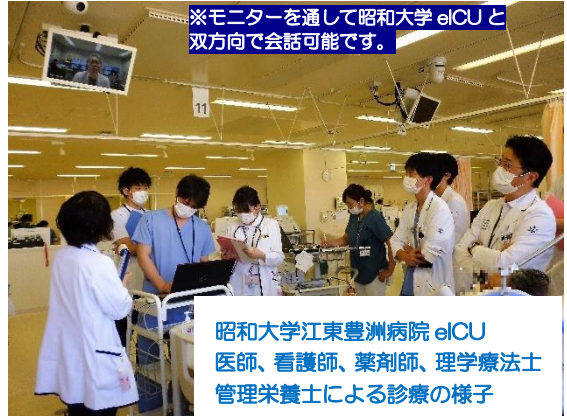




巻頭言 副院長 かみじょう 上條 ゆみ 由美

遠隔医療 集中治療室プログラム (eICU)

医師が患者と直接対面せずに、インターネットなどの通信技術を用いて診療・医療にかかわる行為を行うことを遠隔医療と言います。昭和大学では、昭和大学病院（品川区旗の台）と昭和大学江東豊洲病院（江東区豊洲）の重症病棟をネットワークでつなぐ遠隔 ICU プログラム(eICU)を2018年4月より開始しています。この仕組みはアジア初の試みです。近年、高齢化社会に伴い合併症を持った人の手術が多くなってきています。また、低侵襲手技の普及により、リスクの高い患者を手術する機会も増えてきています。集中治療室とは、このような重症な患者に対して診療科を横断して集学的に治療を行う場所で、血液浄化や人工呼吸器など多くの医療機器を使用しているので、専門的な知識が必要です。しかし、集中治療を担当する専門の医師や看護師は、需要に合わせて増えてきているわけではありません。この遠隔医療プログラムは、集中治療の専門職の知識を多くの施設で共有することができ、各施設の診療を標準化して質を向上させることができます。



昭和大学病院内の支援センターにおいて、昭和大学病院の集中治療室 (ICU・CCU)、救命救急センターの31病床と昭和大学江東豊洲病院の集中治療室 (ICU) 18病床をネットワークで接続しています。支援センターには、集中治療専門医師、重症看護に長けた看護師、医師事務作業補助者が配置され、各病棟の診療支援を行っています。支援センターでは全病床の患者の電子カルテ、生体情報モニター、医療機器からの情報が繋が

っていて、各病床に設置されたテレビ電話で双方向の会話もできます。全患者を一覧できる画面に、臓器別重症度の経時的変化が追えるような解析ツールも搭載されています (フィリップス社製)。アメリカでは1998年より同様な仕組みが導入され、在院死亡率を低下させ、在院日数を短縮させる効果が報告されています。こうした取り組みを通じて、私たちは重症患者の早期社会復帰を目指しています。



昭和大学江東豊洲病院

第58号のトピックス

- 巻頭言
- 診療科紹介
- 外来・病棟紹介
- 「ご意見・ご要望」についての回答
- 編集後記

職員の皆でささえる救急センター

本院が開院してもうすぐ 5 年がたちます。総合診療科は一般救急を担当してきましたが、この間に地域の皆様、また近隣の先生方や周辺の救急隊員の方々と顔の見える関係を築こうと努めてまいりました。おかげをもちまして、開院当初と比べ最近は多くの患者さんが本院の救急を受診して下さるようになりました。この場をお借りして、感謝申し上げます。

本院は救急告示病院であるのと同時に、総合病院であり、また臨床研修指定病院ですので様々な疾病を診療する救急については特に力を入れて取り組んでいます。救急医療は医師や看護師ばかりでなく、その他の多職種の職員の力の結集が必要です。本院の救急センターは病院内の全職員がささえています。



救急センターの診療体制



救急センターのスタッフ

救急センターでは、一般的な救急疾患を担当する医師と専門的で高度な救急疾患を担当する医師がうまく連携をとり診療しています。まずは症状にかかわらず当診療科の救急センター医師が一般的な診療を行い、そこで専門的な緊急処置が必要と判断されれば、直ちにバックアップの専門医師が診療に加わります。そうすることで高いレベルの緊急治療につなげています。24 時間をとおして、このような連携が円滑に行われるよう日々努力しているところです。

当院各診療センターの救急について

本院では専門分野がセンター化され、その各センターは独自に積極的な救急診療をしています。

こどもセンターは新生児集中治療室 (NICU) を備え、呼吸・循環管理を中心とした集中治療を行います。周産期センターは院内の他診療科と密に連携して母体の緊急搬送に対応しています。脳血管センターは東京都脳卒中救急搬送体制の下で脳梗塞超急性期の血管内治療による血行再建を行っています。循環器センターは東京都 CCU ネットワークに加入し、急性期心臓カテーテル治療や緊急心臓血管外科手術を行っています。消化器センターは 24 時間対応で緊急内視鏡治療や緊急手術が可能です。これらの専門性の高い重症患者さんは当院に 18 床ある集中治療室 (ICU・CCU) などに収容し治療します。

今後とも地域の救急の一翼を担う救急センターでありたいと思っています。精一杯頑張りますので、どうぞ引き続きのご支援を宜しくお願いいたします。

当院の救急外来・救急病棟は、急激に人口増加した地域のニーズに合わせ、一次・二次医療圏の患者を日々受け入れています。総合診療科の弘重医師・垂水医師を中心に、各診療科の医師にご協力いただき、日々の治療や看護にあたっています。患者の疾患は全科に及び、年齢も0歳児からすべての年齢が対象です。

救急外来の看護師は14名で、スムーズな診療ができるよう看護師によるトリアージを行っています。救急外来では、CCUネットワーク対象患者、脳卒中患者の増加により、緊急度の高い患者も増加しており看護師にはより高い技術や知識が求められています。また、今年度は患者だけでなく待ち時間中の説明強化を目標とし、家族にも安心していただけるよう取り組んでいます。更に、救急外来業務と並行して夜間の緊急カテーテル介助にもついており、医師の指導を頂きながら患者・家族のためにと悪戦苦闘する毎日です。



救急外来のスタッフ

救急病棟は個室が5床、オープンフロアが20床、計25床の病棟です。日中は救急外来からの受け入れだけでなく、一般外来からの緊急入院も受け入れています。特に夜間帯は、緊急入院をすべて受け入れており、重症患者やせん妄・認知症患者の対応も重なると、一息つく間もなく走り回っているのが現状です。全体の緊急入院に対して、約7割が夜間の緊急入院となっています。

まだまだ勉強不足な点もありますが、今年度は救急医療に携わる看護師として適切な急変対応ができるよう、知識・技術を磨いています。また患者だけでなく、家族にも寄り添った看護が提供できるよう、家族とのコミュニケーションも心がけています。急な入院で不安の大きい患者・家族から、あの看護師に頼めば何とかすると信頼していただけるような看護師を目指します。そして、めまぐるしい日々ではありますが、今後もプロフェッショナルの集団として、多職種と連携しながらより良い看護を追及していきます。

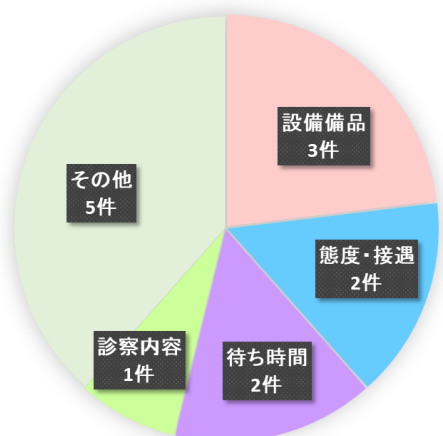


救急病棟のスタッフ
前列左 池ヶ谷師長

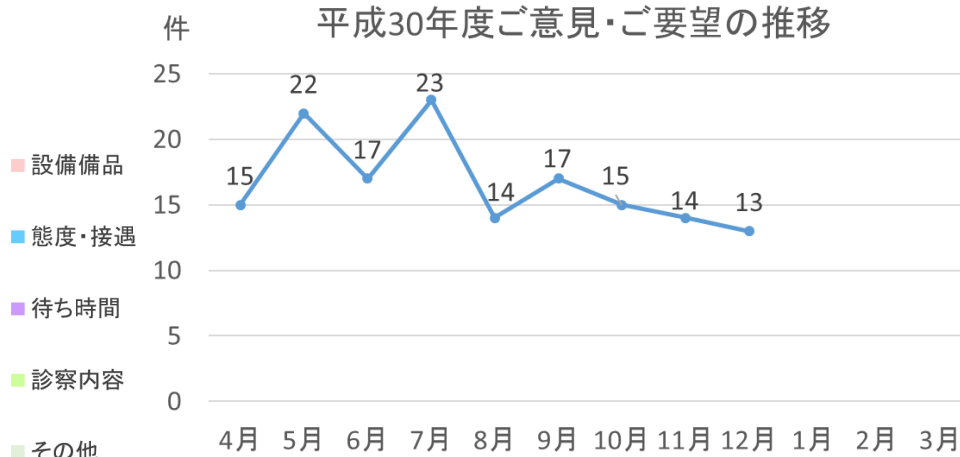
◆「ご意見・ご要望」についての回答

ご意見・ご要望	回答・改善策等
電子レンジの開くボタンにシールをつけてほしい。	この度は貴重なご意見をいただきありがとうございました。分かりづらい機種に関しましては、ボタン部分に「開」のシールを貼り付けました。今後とも、患者さんやそのご家族にとってより良い病院づくりに努めてまいります。 回答部署：管理課
ご意見・ご要望	回答・改善策等
内視鏡の待合室が寒い。	内視鏡センター待合室における温度調整が不適切のため患者様には寒い思いをさせてしまい、ご迷惑をおかけしました。寒さの原因は、非常階段扉の隙間から外気の風が流入する施設構造の問題でした。対策として、非常階段扉の隙間を保護し、外気の風の流入を防ぐ作業をしましたところ、現在は隙間風の流入は減少しております。この度はご不快な思いをさせてしまい、申し訳ございませんでした。 回答部署：看護部

平成30年12月分
ご意見・要望の内訳
総件数13件



平成30年度ご意見・ご要望の推移



編集後記 呼吸器・アレルギー内科 岡田 壮令 准教授

つい先日2019年が明けたと思ったのも束の間、既に2月になってしまいました。立春を迎える時期ですが、春とは名ばかりの最も寒い季節です。今シーズンは暖冬のようなようですが、やはり寒さは厳しく、乾燥や急な温度変化から体調を崩しやすい時期です。皆様も感染予防や体調管理には気をつけてお過ごし頂きたいと存じます。

さて、2月を過ぎれば春は間近です。この春、当院は開院6年目に入ります。折しも翌年にオリンピック開催を控え、否が応でも国際化を意識されますが、医療にもグローバルイズムの波が押し寄せつつあるようです。それにも対応しつつ地域にどのように貢献できるかを考え、まずは本年度の締めくくりに向けて努力してゆこうと思います。



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

TEL03-6204-6000(代表)

発行責任者：笠間 毅 編集責任者：長谷川 真



昭和大学江東豊洲病院
Facebook ページ



Showa University Koto Toyosu Hospital